

いろいろ火の里 
みかわ

ぞかい



くいが
杭掛け がんばるぞ～

大雨被害 今後に生かせ
水害に町独自の支援
買い物弱者を支援
補聴器購入の助成を
定住促進を
次世代に繋がる橋渡し

議会水害調査会

9月定例会

令和5年度決算審査

一般質問

中学生との議場懇談会

シリーズ⑥「がんばってます」
IDF(いのこドリームファミリー)

P2～3

P4

P5

P6～13

P14～15

P16

No.167
9月議会
2024.
10.15

を 町 政 に 届 け る

今後に生かせ

8月9日土口公民館を会場に町民の声を聴き、意見を行政に届け、回答を町内会長に報告しました。その一部を掲載します。



7月25日 上町地内



土口公民館

8月9日(金) 土口公民館で聞き取り

(2) 3ページまとめ 町野 昌弘

猪団地に、排水ポンプも整備され安心していたが浸水を止められなく残念だった。その原因を調べて説明してほしい。



【回答】

猪地区は、農村地域防災減災事業により排水ポンプを整備しました。今回の大雨については、本町の河川水位上昇に関係する地域において2度に渡る大雨特別警報、記録的短時間大雨情報が発表され、大雨により想定外の区域からも流入するなど、想定雨量をはるかに超えた降水で、同地区が浸水したものと捉えています。

避難所で、プライバシー確保のために室内で使うテントはなぜ使わなかったのか？



【回答】

室内で使うテントは、当日の気温の状況では、更に高温となることから、予想されなかった方が良くないと判断し配置しませんでした。



7月の大雨を

7月25、26日の大雨被害を受け議会として**調査会**を立ち上げました。

慣れない避難所



押切小体育館



避難所の体育館の床が痛くて困った。

【回答】
今回の避難所では、避難者にはマット（畳より柔らかい素材）を配布しました。
あくまでも避難所であるということをご理解いただきたい。
今後は、個人や自主防災組織等で座布団を準備するなどの呼びかけも必要であると考えています。



体育館は大型扇風機で暑さ対策をしていたが、スポットクーラーがあればもう少し快適だった。クーラーの付いている部屋を避難所にしてほしかった。



【回答】
本町に大勢の避難者を収容できる施設は限られているため、クーラーが設置された部屋を準備することは困難でした。
各小学校には、スポットクーラー等冷房機器の整備を進めています。が、その効果も限定的であることから、長期の避難となった場合は、クーラー設備のある教室等の活用について検討していきます。



9月2日 町内会長へ調査報告

大雨災害に 町独自支援

9月 定例会



浸水状況

補正予算

第4回議会定例会は9月3日から9日までの会期で開会しました。諸般報告1件の後、町長提案14件と議長発議1件を原案どおり可決しました。

また、請願1件が提出され継続審査となりました。

なお、一般質問は夜間議会で7人の議員が町政全般について質問しました。

一般会計に2億9103万9千円を追加し、53億9023万1千円となりました。

(主な質疑)

〔土木費〕

浸水住宅復旧支援費に90万円を追加

問 事業の具体的な中身は。

建設環境課長 7月25日

・26日に発生した大雨災害による住宅への浸水被害に対して罹災証明書が発行となった住家の復旧費用を補助するものです。(45万円を上限として2分の1を補助)

〔民生費〕

子ども・子育て支援施設整備補助金へ3351万5千円追加

問 増額要因は。

子育て支援室長 令和7年度に民間事業者が新しく開所予定の学童保育所における建築資材の単価改定による増額分と付帯設備として太陽光パネルの設置費用です。

問 児童の振分け方や定員の考え方は。また、保護者説明会の開催は。

子育て支援室長 児童の振分け方や定員の考え方について、現在の学童保

護について、現在の学童保

育所を運営している「庄内アソビバプロジェクト」と新しく運営する「タイケン福祉会」と町とで協議中です。

例年10月下旬に入所説明会を行っています。その時までには方向性を示せるよう準備中です。

条例改正

●三川町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定

提案理由

関係法令の施行に伴い、令和6年12月2日から被保険者証が廃止されるため。

事件案件

●山形県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更提案理由

関係法令の施行に伴い、令和6年12月2日から被

被保険者証が廃止されるため。

人事案件

三川町教育委員会教育

長の任命

〔再任〕

齋藤正志氏(酒田市中町)

請願審査

「国民の命を守るために早急に日米地位協定の抜本的改定を求める意見書」の提出についての請願

審査結果 継続審査

読者の窓

1. 議会広報誌のよく読むページや気になる取り組みはありますか。

小学生との懇談会の記事は興味深く読みました。町のこと、生活を良くするためには、と真剣に考える気持ちが伝わり嬉しい気持ちになりました。

2. より読みやすい、手に取りやすい広報誌にするためにはどのような取り組みが良いですか。

QRコードで読み取りや、三川町のLINEから読めるようになると良いと思います。

3. 議会への要望等あればお聞かせください。

テオトルのホールにぜひ可動式の鏡が欲しいです。住民の思いが届き反映される三川町！と信じています



遠藤靖子さん(横山上)

買い物弱者の 支援を充実

令和5年度
決算審査
特別委員会

一般会計

9月5日・6日の2日間にわたり、決算審査特別委員会を開会しました。
委員会は議長を除く9人で構成し、委員長に佐久間千佳委員、副委員長に町野昌弘委員を選出し審査を行い、承認しました。
なお、主な質疑応答は次のとおりです。

〔商工費〕

問 高齢化の進展や免許返納、これまで集落に点在した商店がなくなったことなどにより、買い物弱者が増加しています。『協働宅配サービス』の利用状況と今後の方針は。
産業振興課 三川町ショッピングセンター開発協同組合の事業に対する補助事業で宅配サービスの利用は828件、買い物送迎利用者は1008人です。今後も、より有効な支援となるよう取り組みます。」

〔町民税〕

問 法人町民税が減った要因は。

町民課 法人町民税は対前年度比約85%と1500万円ほど減額しており、



主に運送業と医療機関での減額が目立っています。運送業は原油高から業績が悪化しており、本町の事業所は規模も大きいことから大きく減ったと考えています。

〔民生費〕

問 ひとり暮らし高齢者無料入浴利用を推進する上でデマンドタクシーとの一体型の支援を検討するべきでは。

企画調整課

デマンドタクシーの平等性を確保しつつ、福祉対策の一環として検討していきます。

〔消防費〕

問 災害訓練実践町内会助成事業の対象を広げ、災害訓練の実践を促すべきでは。

総務課

現在は自主防災組織が開催する防災訓練で使用するヘルメットやスコップなどの備品購入『給食訓練』として非常食の購入を助成しています。今後は、訓練の実施に際して必要とされるものや、新たな備品についても対象にし、訓練の実施組織を増やしたいと考えています。



〔公園費〕

問 公園日常管理謝礼の考え方は。

建設環境課

町で設置した公園のある町内会に出しているもので、公園の広さや樹木の本数、芝貼りの有無等を加味した考え方となっています。

〔教育費〕

問 学力向上対策事業で、英語力の向上を図るための施策は。

教育長

中学生の英語力は県内でも上位に位置付けられ、今後もコミュニケーション能力を高めるため、オンライン交流を継続し、生きる英語教育に力を入れていきます。

〔社会教育費〕

問 町民講座の選定と開催の基準は。

教育課

昨年度は、フラダンス・歴史探訪・スイーツ作りなど10の講座を開催しました。

定員はありますが、おおよね10人の申し込みがあれば開講します。

講座の選定は、参加してくれた人より最後にア

介護保険特別会計

問 施設での介護を希望しているが入所できずに待機している人数は。

また、その対応は。

健康福祉課

町内の特別養護老人ホームにおける三川町民の待機者は46人となっています。

事務所と連携し、待機者に寄り添った形の解決策を検討しながら対応します。



町政を問う

9月定例会

一般質問



一般質問とは…

町政に関して議員が質問を行い、新たな政策の提案や意見を述べ、時には是正を求め、町政をより良い方向へ導くものです。

9月3日、7人の議員が以下の項目について質問しました。

小野寺 正樹 議員

(7ページ)

- 豪雨農業被害に対する町独自の支援策を
- 避難所開設における課題について



議会ホームページは
こちらから
(音声配信中)

佐久間 千佳 議員

(9ページ)

- 町有バス利用の拡充を

砂田 茂 議員

(8ページ)

- 加齢性難聴者への補聴器購入助成を
- 通学路の安全対策について

鈴木 重行 議員

(11ページ)

- 自主防災組織の充実を
- 側溝の整備計画について

小林 茂吉 議員

(10ページ)

- 中学校社会科副読本の発行を
- 大雨被害の教訓を生かせ

町野 昌弘 議員

(13ページ)

- 行政サービスのICT活用は

鈴木 淳士 議員

(12ページ)

- 町民と職員連携による「通いの場」設置を

(6～13ページまとめ 鈴木 重行)

豪雨被害に町独自の支援を

町長 国や県などと歩調を合わせ対応

問 7月25日、26日に発生した豪雨での農業被害の状況は。

町長 今回の農業被害については、町内の農業者に対し8月23日を期限とする調査を実施しており、それを受けて、現在、JAや農業共済組合と取りまための作業を行っています。

問 鶏舎・農産物の被害が大きいことから、町独自の支援策を早急に確立するべきと考えますが見解は。

町長 支援については被害の範囲、程度等を精査の上、慎重に行うべきものであり、さらに、



おの でら まさ き
小野寺 正樹 議員

国や県などの動向も見ながら、歩調を合わせ対応

避難所開設における課題整理を

問 避難所の資材や備蓄と、安全に過ごすための環境整備は。

していくことが、重要なことと考えています。



全滅した収穫目のネギ畑

町長 各小学校の体育館に、毛布、マット、簡易トイレ、パーテーション及びプライバシーシールドなどを計画に基づいて一定数を備蓄し、不足する場合は、水防倉庫から補充することになっています。

問 避難所における行政と自主防災組織の役割は。

町長 「地域防災計画」では、避難所の運営において、町が避難者や地域住民、自主防災組織等の中からリーダーを選出し、リーダーや避難者等と協力して、避難者の把握や物資の調達、情報の伝達等を行うこととしています。

今後は自主防災組織との役割分担を整理して明確化することで連携強化を図り、より良い避難所運営ができるよう対応して行きます。

問 食料品・生活用品など町の備蓄品を一層向上させるための戦略は。

町長 町では、町民に対して日頃から、災害の発生に備えて3日分以上の食料や水の備蓄をお願いしています。

問 避難への対策は。

町長 避難する場合には、町では、非常用持出品を持参するよう、町の広報や防災講話を通して町民や自主防災組織に呼び掛け、災害に備えた備蓄への取り組みが一層促進されるよう改めて広く周知し、啓発に努めています。



体育館での避難の様子

補聴器購入費への助成を

町長 現時点では考えていない



すなだ 砂田 議員

問 聞こえにくさから人前に出づらくなり、認知症につながる要因の一つと言われている加齢性難聴と認知症の関係についての認識は。

聞こえにくさから人前に出づらくなり、認知症につながる要因の一つと言われている加齢性難聴と認知症の関係についての認識は。ングフレイル予防は重要な取り組みであり、高齢者の保健と介護の一体的事業や、地域包括支援センターの介護予防研修会等で取り上げるなど検討します。

町長 加齢性難聴は、コミュニケーション障害や社会的孤立をひき起こすこともあると言われており、認知症の発症や認知機能低下のリスクを高める要因があると認識しています。

問 高齢者が、自らの「聞こえ」の状態を知るために、気軽に聴力検査を受けられる場づくりを考えては。

高齢者が、自らの「聞こえ」の状態を知るために、気軽に聴力検査を受けられる場づくりを考えては。

町長 聞き取る機能の衰えに対するヒアリング



「聞こえ」への支援を

問 補聴器の購入費の助成制度を設けている全国の自治体の状況は。

町長 全国的には広がりつつあり県内でも5市町村で実施していますが、その数は少ない状況です。

問 本町でも助成制度を設けては。

町長 本町では、身体障害者手帳を交付されている方に対する支援を行っており、加齢性難聴者への補聴器購入助成は考えていません。

横断歩道がほしい



要望のある三川郵便局前交差点

問 三川郵便局前交差点の北側にも横断歩道を設けてほしいとの要望があります。設置についての考えは。

町長 現在、三川郵便局前交差点には、東側、西側及び南側に横断歩道が設置されています。

以前、PTAからの要望もあり山形県公安委員会へ要望していますが、現状の交通形態や交通量等を考慮して3方向の横断歩道設置となったもの

で、新たに北側への設置は難しいと捉えています。

問 通学路や学校周辺の道路環境に関する要望への対応は。

町長 町PTA連合会から通学路に関する要望書もいただいております。教育委員会が窓口となって関係課等で検討して回答しています。

※ヒアリングフレイル「聞こえ」の機能が低下して、会話がうまくとれず、生活機能が衰えたりする状態。

スクールバスを全児童対象に

町長 慎重な審議が必要

問 小学校スクールバス運行について、少子化対策、子育て支援の一環として全児童を運行対象とすべきでは。

町長 安全な登下校に関

しては、教育委員会が判断をしています。が、全国では子育て支援の観点からバス運行をしている所もあるのは認識していますが、慎重な審議が必要と考えています。

問 熱中症対策での運行も必要では。

教育長 通学バスの運行対象となる片道の通

学距離を3.5kmから3.0km以上へ短縮し、運行対象となるエリアを拡大していきます。



さくま ちよし
佐久間 千佳 議員

また、年間の授業日数を調整し、2学期の始まりを遅らせるなどの配慮を行ったことで、通学時の熱中症の発生は現在、確認していません。

問 中学校の部活動や地域クラブでのバス利用ルールに関して、

また、年間の授業日数を調整し、2学期の始まりを遅らせるなどの配慮を行ったことで、通学時の熱中症の発生は現在、確認していません。



現状は。

教育長 町有バスを部活動の大会や遠征などで利用する際には、町の貸し出しルールや中学校で定めたバス利用に関する内規に従い運用しています。

問 バス利用に関して、近隣自治体との合同チームの発足や、休日の教員による引率が想定されていないなど、活動への影響が懸念されます。状況に合わせた見直しが必要では。

教育長 中学校の休日の部活動については地域に移行され、それぞれ

活動については地域に移行され、それぞれ

の種目ごとに活動の形態も違ってきていることから、町有バス利用に関してはルールの見直しが必要だと認識しています。

次年度に向けて、関係機関と協議を進めながら、今後のルールを定めていきたいと考えています。

ニーズに合わせた活用を

問 高齢者の介護予防事業において、通所型サービスB（よれちや家）のニーズが高まる中、ニーズに合わせたバス利用をすべきでは。

町長 通所型サービスB（よれちや家）は、基本的に町有バスを利用

し送迎しており、一部送迎の導線から離れる方や、バスの乗降が大変な方にはボランティアの方が直接送迎し、高齢者の負担軽減を図るなど、きめ細かな対応に努めています。



にぎわいを見せる「よれちや家」

中学校社会科副読本の発行を

教育長 学習指導要領になく難しい



こばやし しばよし
小林 茂吉 議員

問 地域の開発や発展
に関連する歴史的
事実を記述した社会科副
読本は次世代を担う子ど
もたちの教材です。生ま
れ育った「ふるさと三川」
に関心を持ち、地域愛を
育む副読本発行の考え
は。

教育長 三川町で育った中
学生が、故郷の良
さを実感することは大切
であり、豊かな人間性を
育む教育活動の重要性を
強く感じます。

中学校の学習指導要領
において、地域に関わる
社会科副読本を活用した
単元は定めておらず、発
行は現時点では考えてい
ません。

問 若者が三川町の過
去を知り、今を考
え、未来に希望を持ち、
郷土の自然や歴史、伝統
文化、産業などに触れて
こそ社会の一員となりま
す。地方を活性化する力
ぎは教育にあると考えま
すが。

教育長 子どもたちに、三
川の良さを感じさせ
ることは重要です。活



部分改訂になる副読本

7月の大雨被害の教訓を生かせ

問 内水氾濫の浸水状
況を記録だけにと
どめるのではなく、内水
氾濫の危険性を住民に周
知する手立てとして、洪
水ハザードマップと一体
的に内水による浸水状況
を並列表示した効果的な
ハザードマップを作成す
べきでは。

町長 内水氾濫が発生
し、一部住宅地の
ほか、農地等にも広く冠
水しましたが、内水での
浸水の程度は洪水時と大
差がないと捉えているこ
とから、新たな内水ハ
ザードマップを作成する
必要性は低いと考えま
す。

問 町内会役員を対象
にした誰一人取り
残さないインクルーシブ
の共助目的と地域住民を
対象にした自助目的の避
難行動計画を検討し、両
者をまとめた町内会全体
のマイ・タイムラインが
必要と考えますが。

※マイ・タイムライン：避
難情報が発令される前に準
備しておく「命を守る避難
行動計画」

総務課長 避難所運営など、
役割分担を含めた
意見交換の場は重要であ
り検討していきます。

問 自主防災組織の維
持と活性化に向け
た「自主防災ネットワー
ク会議」の設置は。

総務課長 地域で避難する場
合、個人と全体の
計画があれば、有効であ
ると考えます。



全戸配布
された
防災ガイドブック



自主防災組織の充実を

町長 役割分担を明確にし強化



すずき しげゆき
鈴木 重行 議員

問 自然災害が頻発する昨今において、地域防災の要となる自主防災組織の育成が重要と考えますが、町の取り組みは。

町長 自主防災会の訓練に対して災害訓練実践町内会助成事業により支援していますが、助成事業に取り組んでいる組織は少なく、課題と捉えています。

問 町内全地域に自主防災組織が設置されていますが、体制や活動に差が生じています。今後の啓発や研修の計画は。

町長 本町における災害の少なさや、地域の防災に対する意識の差によるものと捉えています。今後は自主防災組織と町との役割分担を明確にし、防災への取り組みを強化します。



自主防災組織による避難訓練

問 障がい者や高齢者など、あらゆる人を取り残さないインクルーシブ防災への自主防災組織での取り組み方は。

町長 避難に際して支援が必要な人をリスト化し個別避難計画の作成を地域と協力して行っています。

今後とも自主防災組織と連携して「誰も取り残さない防災」に努めます。

集落内の側溝にフタを

問 集落内の町道は道幅も狭くフタのない側溝もあるため、児童・生徒や高齢者等の歩行者の安全が確保されていない状況です。近年は宅配業者などの貨物自動車の通行も増えており更に危険が増していることからフタの設置を進めるべきでは。

町長 側溝のフタの設置については、町内会やPTAなどから要望のあった路線について、排水能力や除雪作業、維持管理への影響を検討して行っています。

問 近年の豪雨で側溝の水があふれる状況を目にする機会が増えています。勾配や大きさ、土砂の堆積など再点検の計画は。

町長 町内の側溝は相当の再点検は困難であることから、職員による日常の点検と、町内会や町民の方々からの情報に基づいた点検により適切な管理に努めます。



集落のなかにはフタのない側溝が多く残る

町民と職員連携による「通いの場」設置を

町長 現行の「よれちゃ家」を継続する



すずき じゅんし
鈴木 淳士 議員

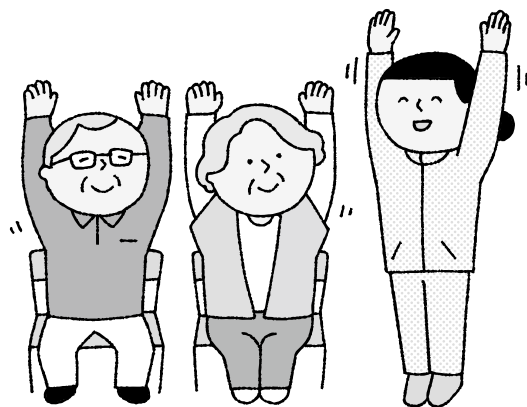
問 福祉センターへバス送迎している現在の状態は「通所型A」であり、男性も通いやすい身近な町内会公民館へ設置する「通所型B」とは異なるものと考えられます。本来は各町内会公民館で実施すべきでは。

町長 少子高齢化が進むなか、地方行政の独自性が求められていて、面積が小規模な本町では、「よれちゃ家」1箇所での活動が有効と考えます。

問 健康増進と介護予防の連携事業を各町内会へ推進するため「にこにこメイト」と町外出身者が多い町職

員が連携して取り組むことにより、町民と職員の関係性が強まる取組みになると考えて提案しました。一方、以前の「学童

員が連携して取り組むことにより、町民と職員の関係性が強まる取組みになると考えて提案しました。一方、以前の「学童



より身近に開設が望ましい「通いの場」

保育」同様、町が事業主体にならずに職員負担の軽減を選択しているとも考えられますが、どのような考え方が。

町長 各町内会における「通いの場」の開設に関する提案については町内会からの協力を得られる体制が不確定な部分もあることから、現在の「よれちゃ家」による通所型Bを今後も継続していきます。



先進事例の「ふれあい天童」のようす

NPO法人への業務委託は可能

問 介護保険事業「通所型B・よれちゃ家」を「にこにこメイト」に委託していますが、以前この組織をNPO法人化する動きがありました。

健康福祉課長 通所型Aとは、対象者の送迎を行いながら、事業所内で職員とボランティアが支援サービスを提供するものでありNPO法人への業務委託は可能と考えられます。

全国的事例では「通所型B」は補助対象のみで「通所型A」は業務委託が多いことから、通所型

町防災アプリ導入を

町長 活用を検討する



まちの 町野 昌弘 議員

問 本町で防災アプリの活用計画は。

町長 独自に導入している自治体はまだ少なく、町では、現在、行政防災無線のほか、ホームページやライン等のSNSにより防災情報を発信しています。

今後、その導入効果や、容易に情報を受け取ることができシステムであるかなどについて十分に検証したうえで、その活用を検討します。

問 防災アプリは広域的なものか。

総務課長 すでに導入している自治体は県単位で導入していると認識しています。

広域的な災害の場合、町民が必ずしも町の避難所に来るとは限らないことと、町の避難所に他市町村の避難者も来る可能性があるので導入に



あたっては広域的な取り組みが有効と考えています。

問 災害時の避難所において、避難者の把握にはICTの活用が有効では。

町長 避難者の把握に関しては、ICTの活用は有効であると考えており、避難所の受付手続きについては、混雑緩和や、速やかな避難者情報の把握、避難者数の確認などのメリットがあると認識しています。



個人のスキルに合わせたスマホの使い方支援を

デジタル支援員の配置を

問 町民がデジタル利用に取り残されないために、個人のスキルに合わせた支援ができる『デジタル支援員』を設けては。

町長 今後の地域社会に

おいては、デジタル格差を縮小することが重要になってくると捉えています。

特に高齢者への対応が課題となっていることから、小グループを対象として、「コミュニティ活動支援員派遣事業」によるデジタル出張講座を実施しています。

今後、開催要望が多くなった場合はデジタル支援員の配置を検討します。

ン・定住促進策」を提案



年生 13 人と議員との懇談会が開催されました。
になるには」というテーマで意見交換が行われました。

町政全般

- ・ふるさと納税で魅力を発信しては。
 - ・休日に親がいない子どもとも触れ合える場を作っては。
- 議員 ふるさと納税をする人が喜べるものを開発することが大切だと思います。
ボランティア団体で地域食堂などを開催し、地域の人と触れ合う場を作っています。

子育てへの金銭的支援を

- ・おむつ代や高校入学時に教科書代を補助しては。
 - ・子育てに関する支援制度を充実しては。
- 議員 三川町でも少子化が進んでいる中で、頂いた提言をもとに子育てに必要な金銭的負担を減らすために議論を重ねていきたいと思っています。

イベント開催

- ・若者が集まりやすい祭りやイベントを増やしては。
 - ・季節に関するものや興味を持ってもらうイベントを増やしては。
- 議員 三川町には、季節ごとのイベントが多くあります。その中に中学生が考えた企画があればもおもしろくなると思いますので、考えてみてはどうでしょうか。

交通安全対策とバリアフリー化を

- ・音の出る信号やバリアフリー・点字ブロックを増やしては。
 - ・イオンモールやドラッグストアなどはあるが、高齢者は遠くて行くのが大変。
- 議員 三川町では、点字ブロックや音の出る信号よりも、公共交通が不足しているので使いやすい交通手段を提案していきたいと思っています。

中学生の感想

生徒会長 渋谷 瞭
懇談会をしてみて、より三川町が好きになりました。

それは、町を第一に考えて子育ての制度だけでなく、スタディサプリやエアードッグなどの学校の設備を整えてくれ、私たち子どもたちに期待してくださっていると気づいたからです。議員のみなさんが、私たちの意見に丁寧に受け答えてくれて楽しく過ごすことができました。

今日を生かし、私たちはこれから皆さんの期待に応えられるように、考えて生活していきたいです。



中学生が「若者のUター



8月29日、三川町議会議場にて三川中学校3
「地元に戻るために必要なこと」「三川町がさらにいい町

教育学習支援を

- ・図書館以外にも学習できる所を増やしては。
- ・食育やものづくりなど、家ではむずかしい子どもの教育を。

議員 食育やものづくりといった学習も、それぞれの能力が引き出されるのでとてもいいと思います。学習できる場所を増やすことも提言していきたいと思えます。

安心して遊べる施設や公園を

- ・学校や町、町民が一体になって子育てできるように気軽に相談できる環境を作っては。
- ・親と一緒になくても行けるような距離に公園や遊び場を作っては。

議員 身近な所にある小学校の活用もポイントになると思います。私たちもお手伝いしたいと思います。

安全対策と移動手段を

- ・安心・安全に暮らせるように街灯の数を増やしては。
- ・小さい子からお年寄りまで使える循環型バスなどを整えては。

議員 安心のためにも、街灯が必要な所を、学校を通じて町に伝えてください。循環型バスは、利用者が少なくなくて無くなりました。現在はデマンドタクシーを利用できます。

商業施設の充実を

- ・町の特産物をまとめた市場のような店を出しては。
- ・三川町と言ったらココという場所をつくっては。

議員 さまざまな施設を利用する人が増えるように、働く場所となる企業の誘致や住む場所としての宅地造成を行っています。

議員の感想

副議長 町野 昌弘

今回、皆さんからいただいたアイデアは私も貴重な意見として受け止めました。議会の役目の中に予算決定や条例制定があるので、今後の議会に生かしたいと思っています。皆さんも、テーマにあったように一旦町外に出て行っても戻ってきて、議員として町の条例や予算を決める仕事についてもらい、将来の三川町をつくってください。



がんばってます

IDF(いのこドリームファミリー)

「次世代に繋がる橋渡し」



IDFは、令和3年4月1日に設立。猪子地区を中心に大豆栽培を受託しています。

メンバーは、発足時は農家生まれでも就農経験のなかった元会社員3人と、農業者1人の4人でスタートしました。現在は、会社を退職したころ、地元の家より声がかかり

「今は転作面積が増加し、その分の農家負担が大きくなっている。転作分を受託して大豆栽培をしてみないか。」と提案があったことでした。自分達も少しでも力になれるのであれば、との思いで大

豆栽培の団体を立ち上げることにしました。

元々農業には興味を持っていて、不耕作地については「何か再生は出来ないのか。」という思いはありました。

自然相手なのでそう甘くないのだろうと覚悟していた通り、毎年違う壁にぶつかり対応に苦慮しています。が、それでもこの経験の積み重ねが将来役に立ち、財産になっていくだろうと前向きに捉えています。

地元農家の皆さんからのご指導いただきながら、なんとか今年で4年



目を迎えることができました。

まだ道半ばですが、将来は大豆の他に、多品目の野菜栽培にも挑戦できたらと思い描いています。

当初の目的である「次世代に繋がる橋渡し役」として農業の魅力をできるだけ多く発信できるように、これからも邁進していきたいと思います。

IDF(いのこドリームファミリー)

代表 前田 斉

表紙の写真



「横山小学校稲刈り」
(写真) 三川町広域協定
運営委員会

編集室

令和6年7月の豪雨において被害に遭われた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。と共に一日も早く平穏な日々を取り戻せますようお祈りいたします。

今回の議会広報誌では議会における水害調査会の内容を記載しています。

経験したことのない自然災害はいつ起こるかわかりません。対応を検証し対策を講じてこそ次に活かせるものと考えます。

今後とも皆様の声をお聞かせ頂き、安全安心な町づくりへつなげていきたいと思ひます。

佐久間 千佳

発行責任者

議会議長 志田 徳久
編集 広報常任委員会
委員長 佐久間千佳
副委員長 町野 昌弘

委員 鈴木 重行
委員 鈴木 淳士
委員 砂田 茂
委員 小野寺正樹